決算特別委員会委員長報告

ただいま議題となりました令和７年度神戸市各会計決算及び関連議案、合計 22 件について、委員会審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

令和７年度決算は、社会保障関係費や投資的経費が増加した一方で、個人市民税の増や固定資産税の増、さらには「行財政改革方針 2025」に基づく取組みを着実に進めたことなどから、財源対策によることなく 15 億 3,600 万円の黒字を確保しております。また、公営企業会計においては、下水道使用料の減少等により、下水道事業会計で経常損益が減少した一方で、港湾事業会計の使用料収入等の増加や、水道事業会計の水道使用料の増加等により、当年度純利益合計は 48 億円の黒字となりました。

しかし、少子・高齢化に伴う人口減少、社会保障関係費の増加、長引く物価高騰、金利の上昇など、本市を取り巻く財政状況が厳しくなることが、予測されます。そうした中、本市においては、限られた財源を効果的に活用し、神戸経済の活性化や市民所得の向上につながる施策を着実に進めていくことが求められております。

委員会は、去る９月 18 日に決算及び関連議案の付託を受けて以来、３つの分科会を設け、９月 24 日から 10 月５日まで局別審査、さらに８日には市長・副市長等に対する総括質疑を行いました。

それでは、委員会審査において議論となりました主な事項について、ご報告申し上げます。

まず、市政全般に関するものとして、今後の財政運営、DX・AI 活用、地域人材の確保、職員の人材確保、組織編成、神戸市外国語大学のあり方検討などについて議論がありました。

次に、施策別では、「経済・産業・観光」に関しては、神戸港・神戸空港の機能強化、都心・三宮の再整備、ウォーターフロント再開発、新規就農者の育成・確保、インバウンド誘客、みなと HANABI、美術館・博物館の活用、神戸市室内管弦楽団のあり方などについて、

「子育て・教育」に関して、保育体制の充実、教員・保育士人材の確保、コベカツへの対応、インクルーシブ教育、いじめ対策、虐待支援策などについて、

「健康・福祉・環境」に関しては、医療人材・介護人材・民生委員の確保、精神保健福祉対策、カーボンニュートラル、高温常態化対策、次世代型太陽電池事業、有害鳥獣対策などについて、

「安全・安心なまちづくり」に関しては、防犯カメラの設置、マンションの適正管理、都市のスポンジ化対策、地域コミュニティ交通、災害時要援護者支援、水道施設の維持管理、市バス路線見直しなどについて様々な議論がありました。

委員会では、このような審査の後、10 月 13 日に意見決定を行った結果、物価高騰対策や公的サービスの縮小・後退、子育て・教育環境への対応などを理由とする反対意見もありましたが、財源対策によることなく実質収支の黒字を確保したことを評価し、あわせて人口減少社会において、市民生活を守るとともに、将来世代が過度な負担を背負い込むことがないよう、未来を見据えた循環型社会を創造し、持続可能な大都市経営を行っていくことを期待して、令和７年度神戸市各会計決算 19 件を認定し、関連議案３件を原案どおり承認することに決定いたしました。

以上、委員会審査の経過並びに結果についてご報告申し上げました。

最後に、委員会運営に終始ご協力をいただきました副委員長、理事の皆様、並びに連日熱心な審査を賜わりました委員の皆様に心から敬意と感謝の意を表しまして、報告を終わります。